

第 57 回日本作業療法学学会

作業療法学専攻 水野(中裕) 貴子

2023 年 11 月 10 日～12 日の日程で、沖縄コンベンションセンターにて第 57 回日本作業療法学学会が開催された。「ものごとの仕組みに注目するー作業療法における問題解決の糸口としてー」をテーマに、基調講演、教育講演、シンポジウム、各種セミナーなどの現地開催（一部ライブ配信）後、オンデマンド配信（2023 年 11 月 13 日（月）～12 月 24 日（日））が行われた。

11 月 11 日 15:10～16:10 に、大阪公立大学情報学研究所の濱裕光名誉教授と本大学作業療法学専攻の中裕俊介教授と共著にて、「片手用髪留め具の開発ー汎用性の高い自助具を目指してー」のポスター発表を行った。

福祉用具は多種多様なものが製品化されている。髪を束ねる動作は両手を必要とするにも関わらず、片手で髪を束ねるための汎用性の高い自助具は少ない。そこで片手用髪留め具を開発し、特許を申請して公開した（特開 2016-43221）。被験者が片手用髪留め具を長期間使用したことで、新たな問題点を発見し、改良を行ったので報告した。

目的として、片手用髪留め具の快適化、及び修理の簡便化を図り、おしゃれをより楽しむこととした。

片手用髪留め具は、直径 22mm の丸いステンレスの芯を布で包んで作ったくるみボタンを基礎とし、指先装着部にカラーテープ、継ぎ目にスナップボタンとヘアゴムを使用し、小林らの研究を参考に、くるみボタンとスナップボタンの間にココナッツボタンを挟み、よりスナップボタンが留めやすいように補高した。指先装着部の太さとヘアゴムの長さは被験者に合わせて調節した。

右手使用の場合、片手用髪留め具のヘアゴムの位置が内側に来るように右母指と中指に装着する。ひとつ結びの場合、頸部体幹右側屈し、髪を右側に集めておく。右肩関節外転外旋し、母指と中指を伸展させながら片手用髪留め具のヘアゴムを伸ばしつつ、示指環指小指を屈伸して髪をまとめている。装着部に髪を挟まないように母指と中指を屈曲して合わせスナップボタンを留めて装着し、片手用髪留め具から母指と中指を外すことで髪を束ねることができる。自身で片手用髪留め具を取り外し、髪をほどくことも可能である。

被験者は、右片麻痺で、左手は利き手レベルの実用手であった。高次脳機能障害は認められず、独歩で ADL もほぼ自立。自身の自動車運転で買物や、電車でコンサートに行くなどアクティブで、化粧等のおしゃれにも気を遣っていた。

片手用髪留め具の使用により、髪を束ねる時間が 10 秒以内で可能となり、緩くなることはなく束ねた状態を維持できるようになった。また、持ち運びが可能で、いつでも髪を束ねることができるなどの便利さがあった。

4 年間使用を継続していると、1 ヶ月に 1 回程度の頻度でヘアゴムが劣化し、伸びて切れる事象が持続した。また、スナップボタンの破損、パーツ接続部における糸の劣化、布部分の汚れ、指先装着部の拡張などの問題が生じた。改良点として、スナップボタンからマグネットボタンへの変更、ヘアゴムの取り換えが簡単にできるように、スナップボタンをつけたココナッツボタンと、くるみボタンの金具との間に紐を入れる、パーツ装着に使用する糸の強化、布を合皮に変更し汚れの軽減を行った。これらの改良により装着の快適化と修理の簡便化につなげることができたと考える。また、片手用髪留め具をシンプルなデザインにし、シュシュなどの他のヘアアクセサリなどを被せて、よりおしゃれを楽しむことができることが分かった。

1 時間の発表のうち、10 人以上の参加者から声をかけられ、使用方法などの質問をされたり、片手用髪留め具を実際に装着してもらったり、作り方を教えてほしいと依頼されたり、開発した片手用髪留め具に対する関心が高かったと思われる。

現在、企業と連携して共同開発を進行中であり、より多くの患者様に提供できるように片手用髪留め具の汎用化を目指している。



図 1 片手用髪留め具



片手用髪留め具の使用映像



図 2 第 57 回日本作業療法学学会ポスター発表